

<エクセルコンバータ導入のメリット>

- ◎ 変換するエクセル書式は、自由に作成することができ、登録数に制限はありません。
- ◎ 提出先に「EstimaCity」がなくてもエクセルがあれば、データを読み込むことができ、大変便利です。
- ◎ 変換された見積書の数量や単価を変更すると、金額や縦計・総額も自動的に計算されます。(付属品・経費等は計算されません。)
- ◎ 複合単価・歩掛・原価などのデータもエクセル出力できるので、自社独自のさまざまなフォームの作成が可能です。

- ◆ 見積システムで印刷に使用した「印刷上の日付」を表紙に出力できるようになりました。
- ◆ 変換するレポートファイルを「XLS」のほか「XLSX」にも対応しました。
- ◆ 見積情報の拡張された部分の取り込みが可能になりました。
 - ・ 建築面積 [㎡], 建築面積 [坪], 設計者, 使用用途, 建物構造, 摘要 1 ~ 5 など
- ◆ 見積データだけでなく、歩掛や原価の出力も可能になりました。
 - ・ 表部
 - 1) 見積数量 2) 標準単価 3) 標準金額 4) 見積単価 5) 見積金額 6) 数量検討率 7) 単価検討率 8) 備考 2 ~ 3 9) 歩掛 1 ~ 5 10) 原工数 1 ~ 5 11) 見積工数 1 ~ 5 12) 利益金額 13) 利益率 14) 拾い根拠 15) 補給率 16) 余長 17) 余長有無 18) 余長個所 19) 定尺 20) 本数 21) 系統 1 ~ 系統 5 22) 平面 27) 立面
 - ・ 鏡部
 - 28) 原価合計 29) 標準金額合計 30) 見積金額合計 31) 原工数合計 32) 見積工数合計
- ◆ 旧バージョンにありました、「シートを階層ごとに分ける」出力を廃止しました。
- ◆ 「その他の設定」ダイアログでの設定により、金額抜きモードを追加しました。このモードの場合でも「別途工事」や「支給品」などの文字は出力されます。

※ 詳しくは次頁からの詳細をご覧ください。

総括表・総括明細・内訳明細

Office2013 に対応しました。



見積情報の拡張された部分の出力、そのほか歩掛や原価も出力可能になりました。
これにより様々な書式を思い通りに作成することが可能になりました。



<エクセルコンバータ導入のメリット>

- ◎変換するエクセル書式は、自由に作成することができ、登録数にも制限はありません。
- ◎提出先に「EstimaCity 電設」がなくてもエクセルがあれば、データを読み込むことができ、大変便利です。
- ◎変換された見積書の数量や単価を変更すると、金額や縦計・総額も自動的に計算されます。(付属品・経費等は計算されません。)

「エクセルコンバータ」は、旧バージョンでは動作しません。
「EstimaCity 電設」自体のバージョンアップが必要です。